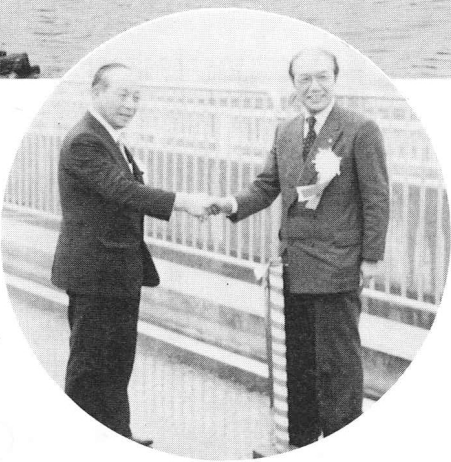


「新」共和橋が開通



完成した共和橋(上流は旧共和橋)



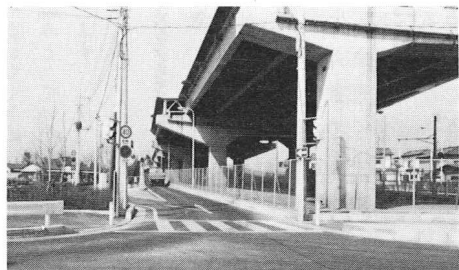
▲橋の中央で握手する八潮・三郷の両市長

八潮・三郷両市民の念願であった「新」共和橋が完成し、四月十日の午前十時よりの開通式が行われました。

当日は、降りしきる雨のなか八潮市長をはじめ三郷市長、県、副知事、首都高速道路公団、副理事長のほか、約二百名の関係者が式典に参加しテープカットや渡り初めなどが行われました。

本橋は、都道県道高速足立三郷線開通事業の一環で、中川を横断する新設橋梁(全長八五八メートル)として計画され、昭和五十一年九月一日に着工し総工費一千二百億円をもって完成したものです。なお、この橋は八条橋と潮止橋のほぼ中間で、旧共和橋の下流に位置しています。

従来の共和橋は、老朽化のため人と自転車等しか通行できませんでした。したが、本橋の完成により八潮市、三郷市両地域を結ぶ主要路線の一つとして、地域の交流と交通の緩和に役立つほか、流通機構の面からも両市民生活に大きく貢献するものと期待されます。



▶共和橋入口(八潮側)



▲テープカット八潮市長(左)



▲4ヶ所に設置された歩道橋

「なくそう差別私たちの町から職場から」

同和

問題

—7—

「戦後の解放運動」と同和对策」

戦後、新憲法に基づく民主的な改革にもかかわらず、部落差別は依然として残り、各地で差別事件が起りましたが、同和問題は放置されたままでした。

このような情勢の中で、昭和21年2月「部落解放全国委員会」が結成され、自主的な解放運動が再び組織されました。

戦後の解放運動は、戦前の水平社運動の伝統を受けついで、その経験と考え方のうえに立って発展したのですが、とくに戦後の特徴は一口に「行政闘争」を中心にしたものです。その代表的な一例として、京都に起きた「オールロマンズ事件」があります。

この事件を契機に、部落解放のための行政施策を要求する大衆運動が全国的に展開されることになりました。

そうして、昭和30年、この運動をさらに発展させるために、部落解放委員会は「部落解放同盟」と名称を改め、行政に対して、同和对策を積極的に実施するように運動を行いました。

一方政府は、昭和28年度の国の予算に、戦後をはじめ、同和地区に隣保館を設置する経費の補助金

を計上し、さらに31年度から共同浴場設置というように予算を増額しました。こうして、しだいに同和对策が進められていきました。

しかし、これらは、部分的な改善事業だけにとどまっていたので、同和問題を大もとから解決するための総合的な対策をたてる必要があるという声が高まってきました。

そこで政府は、昭和33年内閣に同和問題閣僚懇談会を設けて、関係各省の行政施策の中に同和对策をとり入れることにしました。

一方、いくつかの政党でも、特別委員会を設けて同和对策を検討し、同和对策要綱を発表しました。

昭和35年部落解放同盟を中心とする「部落解放要求貫徹請願運動」が全国各地で強力におし進められました。

昭和35年の臨時国会で各政党は人権尊重の立場から党派にこだわらず、たがいに連けいして同和对策審議会設置法案を共同提案し、国会は全員一致をもって可決しました。

昭和40年には「同和对策審議会答申」が出され、さらに昭和44年には答申の内容を具体的に実施するために「同和对策事業特別措置法」が公布されました。

現在、国や県・市町村は、この法律に基づいていろいろな同和对策事業を進めています。

「なくそう差別
私たちの町から職場から」
(ひかりより抜粋)